

GIS 上級技術者 更新申請 マニュアル 2018/04/09

I	更新の要件と更新手続きの概要	1
II	更新のための準備	2
III	更新用申請書類の構成	2
IV	GIS 上級技術者 更新用申請書類の作成	3
IV-1	氏名及び GIS 上級技術者の認定番号の記入【申請書式 表紙、連絡先等】	3
IV-2	科目履修及び学会大会出席ポイント（教育ポイント）の記入【申請書式 EDU-R】	3
IV-3	専門分野への貢献ポイント（貢献ポイント）の記入【申請書式 CON-R】	5
IV-4	合計ポイントの記入【申請書式 合計更新ポイント】	8
IV-5	経歴書の作成【申請書式 経歴書】	9
V	申請の却下	9
VI	更新費用	9
VII	問い合わせ	9
VIII	更新履歴	9

I 更新の要件と更新手続きの概要

GIS 上級技術者の更新には、GIS に関する教育を受けさらに GIS 分野に貢献したことを示す規定のポイントと、GIS 上級技術者として少なくとも 2 年間以上の実務経験が必要である。

また、更新時まで継続的に地理情報システム学会又は連携学協会（人文地理学会、日本地図学会、日本地理学会、日本リモートセンシング学会、GITA-Japan、OSM Foundation Japan、OSGeo 財団日本支部）の正会員もしくは賛助会員の構成員であることが求められる。

GIS 上級技術者の資格の有効期限は 5 年間である。5 年を経過する日までに更新申請書を提出しなければ、資格を継続することはできない。ただし特例として、3 ヶ月間の猶予期間を設け、その間の更新申請は受け付けるが、合格日までは、資格を失うことになる。

更新手続きは、経歴書とポイントにより行う。

経歴書は、ポイントを算定するために用いるのではなく、GIS 上級技術者として少なくとも 2 年以上の実務経験を積んだかどうかを確認するために用いる。

ポイントは、「科目履修及び学会出席によるポイント（以下教育ポイント）」及び「GIS 分野への貢献により獲得したポイント（以下貢献ポイント）」からなる。

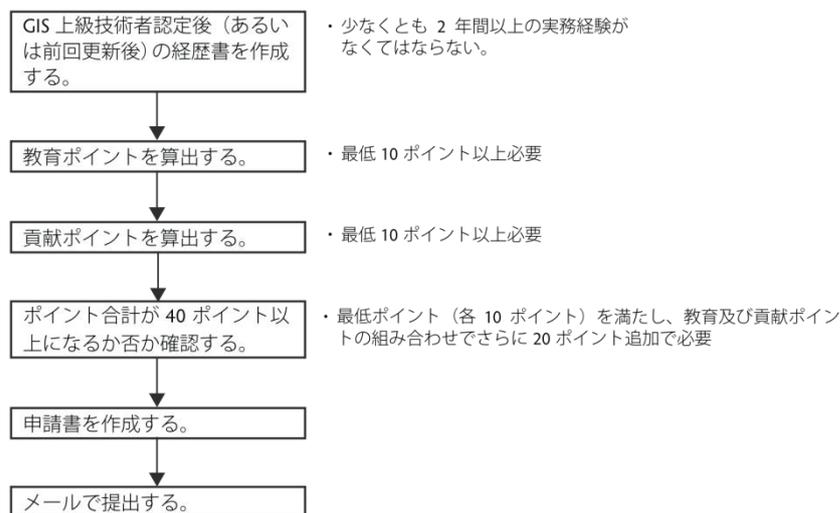
以下に更新手続きの概要を示す。申請書の詳細は以降の章で解説する。

更新申請の規則（概要）

更新申請受付期間	失効日の3ヶ月前 失効日	この期間に更新申請を提出し、合格した場合は、認定日は、失効日の翌日になる。	不合格になった場合は、更新申請が正しかったことを証明する資料を添付して、不服の申し立てができる。ただし、不服申し立ては1回のみである。
特例期間	失効日の3ヶ月後	特例期間中は、更新申請をもって新規の申請をすることができる。ただし、合格した場合は、合格日が認定の開始日になるので、空白期間が生じることに注意すべきである。	
それ以降は、新規の申請を行う事。			

失効日：資格取得後5年を経過した日

申請書の準備から提出まで



II 更新のための準備

GIS 上級技術者の更新を行うための申請書類作成にあたり、申請者は申請書類作成に必要な資料を準備しなければならない。

資料には、例えば以下のようなものがある。

参加証、修了証、賞状、出版物、シラバス、プログラム、実務経歴

III 更新用申請書類の構成

更新のための申請書類は、以下のシートから構成される。

シート	概要	マニュアル
表紙	認定番号と氏名の記入。署名捺印	IV-1
合計更新ポイント	ポイントの記入	IV-4
連絡先等	連絡先やホームページの情報を記載	IV-1

EDU-R	教育ポイントの内訳及び合計を記入	IV-2
EDU-R 証拠書類表紙 中表紙 1	教育ポイントを証明する書類の表紙	
EDU-R 証拠書類	成績証明書や参加証を添付する。	表 1
CON-R	貢献ポイントの内訳及び合計を記入	IV-3
CON-R 証拠書類表紙 中表紙 2	貢献ポイントを証明する書類の表紙	
CON-R 証拠書類	貢献の内容に応じて指定された証拠書類を添付する。	表 2
支払い証明書表紙 中表紙 4		
更新料の支払い証明書	更新料の振込控えを添付する。	VI
経歴書表紙 中表紙 5	経歴書表紙	
経歴書	過去 2 年間以上の実務経歴 (GIS 上級技術者に認定以降、または前回更新してからのもの)	IV-5

IV GIS 上級技術者 更新用申請書類の作成

申請に関する基本方針は、次の 3 点である。

- 3つのカテゴリで、要求されたポイントに達成すること。3つのカテゴリ及び必要なポイントとは、「教育ポイント：10 ポイント」、「貢献ポイント：10 ポイント」そして、「教育及び貢献による追加ポイント：20 ポイント」である。
- 更新に必要な合計ポイントは 40 ポイントである。この 40 ポイントに達していれば、ポイント数による優劣はなしに資格を更新できる。
- 申請書内のポイントは、小数点となることがある。ポイントの値は小数点第 3 桁を四捨五入し、小数点 2 桁で示すこと。例えば、25.234 ポイントは、25.23 ポイントとなり、25.236 ポイントは、25.24 ポイントとなる。

以降で申請書類の作成手順を示す。

IV-1 氏名及び GIS 上級技術者の認定番号の記入【申請書式 表紙、連絡先等】

表紙に認定番号と氏名を記入し、自筆による署名と捺印を行う。さらに連絡先等に所属や連絡先などを記入する。

連絡先に変更があった場合、必ず GISCA に変更内容を連絡すること。

IV-2 科目履修及び学会大会出席ポイント（教育ポイント）の記入【申請書式 EDU-R】

申請書式 EDU-R を用いること。

科目とは GIS に関するセミナーやワークショップ、講習会等のうち、大学の学部教育レベル以上の教育をさす。例えば、GISCA の GIS 教育認定を受けた教育プログラムがこれに該当する。当協会が教育認定を行っているプログラムについては、科目履修として扱い、無条件で認めるが、それ以外のものについては、審査段階で評価することになる。また、学会大会とは GIS に関する学術的な団体が開催する研究発表大会をさす。GIS に関する学術団体が実施する GIS に関する教育・研修・講習や、GIS に関する普及啓発および、職務の技術認定等を実施している団体が実施する GIS に関する技術講習等も出席ポイントに該当する。開催地の国内外は問わない。

ただし、同一の教育機会に対して複数の機関がポイントを付与している場合は、それらを重複してカウントしてはならない。

EDU-R に示したすべての科目履修及び学会大会出席について、証拠書類が必要となる。必要となる証拠書類を表 1 に示す。証拠書類は、自身の履修または出席を示す資料と、科目または学会大会の内容を示す資料の 2 点が必要となる。EDU-R 証拠書類表紙とともに、すべての証拠書類を添付すること。申請書式 EDU-R に示す科目及び学会のタイトルは、添付する証拠書類のシラバスや成績証明書、参加証等に記載されたものを一致させること。必要な証拠書類がないポイントは、更新のためのポイントとして認めない。

更新には、教育ポイントとして最低 10 ポイントが必要であるが、詳細については以下の規定に従うこととする。

- 教育ポイントは学会大会等の出席、GIS 関連の展示会等のイベントに出席した場合の貢献ポイントからの振り替え、GISCA による教育認定プログラムへの受講及び高等教育機関の学部レベル以上の教育への受講、のいずれかに該当する場合に与えられる。
- 学会大会等の出席に要した 6 時間につき 1 ポイントが与えられる。例えば、8 時間の学会に出席した場合 $8 \div 6 = 1.33$ ポイントとなる。
- GIS 関連の展示会等のイベントに出席した場合は貢献ポイントになるが、教育という側面もあるので、貢献ではなく学会大会等への参加とみなしてカウントすることもできる。ポイント数は学会大会等への出席と同様、出席時間 6 時間につき 1 ポイントである。
- GISCA による教育認定プログラムへの受講及び、高等教育機関の学部レベル以上の教育への受講については、授業履修時間 $\times 2 \div 6$ ポイントを与える。ここで $\times 2$ は学修時間比率といい、実際に受講した時間に加えて、予習と復習に要する時間を考慮した比率である。

なお、GIS 関連の展示会等のイベントに出席した場合は貢献ポイントになるが、教育という側面もあるので、貢献ではなく履修ポイントとしてカウントすることもできる。ただし、ポイント数の計算は、表 3 貢献達成度ポイント一覧表の X-2 により、学修時間比率は掛けず、出席時間 $\div 6$ 時間で求める。

表 1 科目履修及び学会出席ポイントの証拠書類

	証拠書類	備考
科目履修	1. 受講証または修了証	受講者の氏名、受講年月日、受講時間数、科目名、開催機関が明記されていること。 ただし、受講時間数等が、シラバス等に表示されている場合はこれに替えてよい。
	2. シラバス、プログラム	科目名、内容が示されており、開催機関が発行したものであること。GISCA の GIS 教育認定を受けた教育プログラムの場合は省略してよい。
学会大会出席	1. 参加証、領収書、登録証	出席者の氏名、出席年月日、大会名、開催機関が明記されていること。
	2. プログラム	学会大会の内容、開催時間が明記されていること。開催機関が発行したものであること。
履修または出席を示す資料とその内容を示す資料が同一の場合は 1 点でもよいが、必要事項が網羅されていることを確認すること。 毎年開催される定期大会は、参加した大会ごとにポイントを申請するとともに、証拠書類を添付すること。		

IV-3 専門分野への貢献ポイント（貢献ポイント）の記入【申請書式 CON-R】

貢献ポイントは、それぞれの内容に応じて与えられる。更新には、最低 10 ポイントが必要である。

表 2 に、貢献として定義されるカテゴリの定義とポイント申請に必要な推奨添付文書を示す。表 3 に各カテゴリに与えられるポイントを示す。

貢献ポイントは、申請書式 CON-R を用いて記述し、CON-R 証拠書類表紙とともに、すべての証拠書類を添付すること。

貢献ポイントは、以下に従い算出する。

- 表 3 で、活動あたりのポイントが 1 日単位（/日）で記載されている場合は、8 時間の活動につき、ポイントを加算できる。例えば、2 時間のセミナーに参加した場合、「Ⅷその他の GIS に関する貢献—X-2.イベントへの出席」に該当し、ポイント加算することができる。
- GIS ボランティアに、2 時間×5 日間参加した場合は、「ⅦGIS ボランティア—U.ボランティア活動」に該当し、 $2 \times 5 \times 0.15 = 1.5$ ポイント加算できる。
- 「X-2:イベントの出席」を申請する場合、分単位の時間数は「出席時間の参照値」を参照すること。（5 分以下の時間は切り捨て）

表:出席時間の参照値

10 分	0.17	40 分	0.67
20 分	0.33	50 分	0.83
30 分	0.50	60 分	1.00

表 2 貢献ポイント カテゴリの定義及び証拠書類一覧表

I: GIS 出版物 (GIS に関する執筆や査読)	
出版されたいかなる業績についても、貢献達成度ポイントの獲得を目的とする場合においては、電子媒体あるいは印刷物として独立した第 3 者から入手可能でなければならない。 入手可能とは、複製品がダウンロード可能あるいは印刷物として手に入れることができることを言う。 独立した第 3 者とは、出版物及び/又はその内容に関して決定権を有する著作者以外の個人あるいは企業であり、著作者と雇用関係をもつあるいは教育指導を与える関係にあってはならない。書籍や記事あるいは地図の発行について、有償か無償かは問わない。科目の課題成果物としての論文は、教育達成度の履修ポイントに含まれるため、ここで加点されることはない。	
著者及び共著者	出版物の執筆者である。出版において、著作物を作成したことに対してポイントが与えられる。
A. 書籍又は地図帳の著者/編者	
書籍及び地図帳の著者	出版物の執筆、編集、及び基となる資料の作成
書籍及び地図帳の編者	出版物の編集
添付資料	表紙、標題紙又は奥付のハードコピーが望ましい。ISBN 番号や出版年及び題名がなければならない。
B. 査読論文及び書籍の章の著者	
添付資料	
書籍の章の著者	表紙、章の目次、章の最初のページのハードコピー又は奥付。ISBN 番号や出版年及び題名がなければならない。
査読論文	論文雑誌の表紙、目次及び表紙が掲載されたページのハードコピー。ISBN 番号や雑誌の巻や号がなければならない。
C. 刊行地図 (編者)	
	雑誌や本に掲載された地図の作者。1 つの出版物内に複数掲載している場合も 1 つとみなす。刊行された地図帳や地図によって、貢献達成度ポイントの獲得を目指す場合においては、それらは実際に刊行されたものでなく

	てはならない。
添付資料	地図及び引用のハードコピー
D. 編集委員	出版前に学術的又は技術的審査のある連載又は出版物の編集を行う。
添付資料	編集者名簿のコピーが望ましい。それに追加し、雑誌や書籍又は連載の一覧、ISSN 番号、出版年及び委員会における役職。
E. 雑誌・論文集の記事、雑誌・論文集の論説	雑誌や論文集に記事あるいは論説を掲載すること。
添付資料	掲載された出版物の名前、出版日、ISSN 番号及び記事のコピー
F. 予稿集の研究論文	論文予稿集に掲載された研究論文。発表資料（PPT 等）は研究論文としては認めない。
添付資料	会議名、開催日、開催場所及び論文表紙のコピー
G. 雑誌、論文集、会報誌の論説編集	雑誌、論文集、会報誌の記事の編集をした場合。
添付資料	編集委員会の名簿コピー。雑誌や出版物の ISSN 番号、出版年及び役割を記載した書類。
H. 会報誌の記事及び査読（書籍、ソフトウェア、及び政府の施策の紹介等）	会報誌の記事の執筆及び編集をしたこと。学術的又は技術的な内容に限る。
添付資料	記事の掲載年月日、記事番号または会報の発行年月日及び名前。記事及びタイトルのコピー。
備考：職業的な執筆行為は、経歴書に記載する。学位論文は教育とみなされる。	
II. GIS に関する技術者団体への参加（GIS の活動や教育に主眼を置いた機関の会員）	
技術者団体とは、共通の専門的興味をもつ人々により組織された団体である。国内又は国外、会費の有無、規模の大きさは問わない。ただし、就業場所であってはならない。参加は奉仕的であり、給料のような定期的な報酬はない。謝礼金は認められる。GIS や GIS に関連する技術に焦点をおいたものでなければならない。GIS に特化したグループや集まりを有する組織でも良い。	
I. 代表あるいは会長	組織の長であり、政策の策定や方針の決定を行う。
J. 理事	組織の運営や助言に力をもつグループのメンバー
K. 委員長	なんらかの検討や決定、実行又は報告を行う団体の代表
L. 委員	なんらかの検討や決定、実行又は報告を行う団体の役員
M. 会員	専門的興味を有する団体の参加者
添付書類	会員証。関連する出版物、受領証または認定証など。
III. GIS に関する会議への参加	
GIS または空間技術に関する関心事について議論する人々が集う会議又は集会。会議は、ユーザー会などに比べて大規模である。協会への参加と類似しており、同様の記述が必要である。	
N. 会議議長	GIS または空間技術に関する関心事について議論する人々が集う会議又は集会の議長
O. 会議委員	GIS または空間技術に関する関心事について議論する人々が集う会議又は集会を計画・組織する委員会委員
添付書類	会議内容のリスト、出版物又は協会・機関からの証明書
IV. GIS に関するワークショップ開催（一般に提供されるワークショップをさし、申請者が所属する組織の利益を目的として開催されるワークショップは含まない）	
ワークショップとは、GIS あるいは空間技術に関する技術を移転することに焦点を置いた人々のための短期集中教育プログラムである。学会での発表は含まない。一般的に、ワークショップは、学会が主催する集会より期間が長く、また特定の対象に特化している。	
P. ワークショップでの講師	ワークショップでの指導または講義の実施
根拠資料	プログラムのコピーあるいは開催機関からの承諾書。もしも無い場合は、開催機関の署名入りの手紙。この手紙には、ワークショップの名前や年月日がなげ

	れない。
V. GISに関する学会での発表 (GIS 関連の学会での発表。ポスターセッションも含む)	
Q. 及び R 学会発表, ポスター発表	GIS に関して議論する場における経験や業務, 及び成果の発表
添付書類	プログラムや開催機関からの承諾書。もしも無い場合は, 開催機関の署名入りの手紙。この手紙には, 会議の名前や年月日がなければならない。
備考: 学会での発表と, 発表内容の予稿集への投稿はそれぞれ別にカウントしてよい。(1 GIS 出版物参照)	
VI. GIS に関する受賞	
S. 全国レベル	全国的な組織あるいは国際的な機関からの表彰
T. 地方レベル	地方組織からの表彰
添付書類	いつ, どこでなぜ受賞したかを証明可能な署名入りの書類。会議名やプログラム, 会報, 雑誌, 記事などでもよい。表彰状のコピーあるいはデジタル画像も添付することが望ましい。
備考: 申請者の組織内での表彰は専門分野における貢献達成度の対象にはならない。組織としての受賞は, 対象にならない。	
VII. GIS ボランティア	
U. 及び V. ボランティア任務, 活動	GIS に関する非営利活動。
添付書類	主催者の署名の入った参加証。活動の内容や従事した期間が明記されていること。
VII. その他の GIS に関する貢献 (GIS 週間などのイベント企画者や参加者及び様々な団体への貢献)	
他の分類に該当しない様々な活動を記載してよい。学校での発表や地域社会の地図づくり, GIS 週間の企画など様々な活動を含んでよい。ただし, 職業であってはならない。	
W. イベントの企画	GIS に関する事項について議論する人々を集める企画の立案。GIS に関する知識の移転や紹介が該当する。
X-1. イベントへの積極的参加	GIS に関する事項について知識を広め, また議論する人々を集めるための集会で, 主催者側ではないが, 司会をしたり, 発表をしたり, また展示を担当するような場合が, これに該当する。
X-2. イベントへの出席	GIS に関する事項について知識を広め, また議論する人々を集めるための集會に出席した場合が, これにあたる。なお, 出席者は一定の知識を得ることになるので, 貢献ポイントとしてではなく, 履修ポイントとしてカウントすることもできる。ただし重複してはならない。
添付書類	申請者の参加を証明するもの。例えば手紙や記事, チラシなど

表 3 貢献達成度ポイント一覧表

I GIS 出版物	
出版物の種類	出版物あたりのポイント
A. 書籍または地図帳の著者/編者、	45
B. 書籍の章の著者または査読論文著者	15 (共著者は 5)
C. 刊行地図 (編者)	9
D. 編集委員	9
E. 雑誌・論文集の記事・論説	9
F. 予稿集の研究論文	6 (共著者は 2)
G. 雑誌, 論文集, 会報誌の論説編集	3
H. 会報誌の記事	3
II GIS に関する技術者団体への参加	
参加方法	所属あるいは職務における経験年数により獲得されるポイント
I. 代表あるいは会長	15
J. 理事	12
K. 委員長	9
L. 委員	6

M. 会員	3
III GISに関する会議への参加	
参加方法	会議あたりのポイント
N. 会議議長	12
O. 会議委員	6
IV ワークショップ開催	
	ワークショップあたりのポイント
P. ワークショップでの講師	9
V GISに関する学会への発表	
発表方法	1回あたりのポイント
Q. 学会発表	3
R. ポスター発表	3
VI GISに関する受賞	
受賞の内容	受賞あたりのポイント
S. 全国レベル	9
T. 地方レベル	6
VII GIS ボランティア	
活動の内容	活動あたりのポイント
U. ボランティア任務	1.5 ポイント/日
V. ボランティア活動	0.15 ポイント/時
合計の活動時間が 72 時間以上の場合には、ボランティア任務として算定し、72 時間未満の場合はボランティア活動として算出すること。	
VIII その他の GIS に関する貢献	
参加方法	活動あたりのポイント
W. イベントの企画	6/日
X-1. イベントへの積極的参加	3/日
X-2. イベントへの出席	出席時間÷6

IV-4 合計ポイントの記入 【申請書式 合計更新ポイント】

申請書式 EDU-R 及び CON-R の合計ポイントを、合計更新ポイントシートに記入する。
合計ポイントは、40 ポイント以上でなくてはならず、これを満たさない場合、更新はできない。

表 4 更新に必要なポイント

カテゴリ	必要最低ポイント
教育達成度ポイント（科目履修及び会議出席）	10 ポイント
専門分野への貢献達成度ポイント	10 ポイント
追加ポイント 教育、貢献の組み合わせ。	20 ポイント
合計	40 ポイント

IV-5 経歴書の作成 【申請書式 経歴書】

GIS 上級技術者認定後（あるいは前回更新後）の実務経験を経歴書の書式に従い、作成する。経歴は、少なくとも 2 年間以上でなくてはならない。業務名、発注者、発注期間、主たる作業内容を明記すること。

V 申請の却下

更新申請が却下された場合は、以後、更新申請は受け付けない。再度資格を取得したい場合は、新規申請を行うこと。ただし、審査結果に不服がある場合は、連絡後 2 週間以内に、申請が正しいことを明確に証明する資料を添えて、不服の申し出をすることができる。不服の申し出であった場合は再審査をするが、疑義がある場合は不合格とし、それ以降は、不服の申し出では受け付けない。

VI 更新費用

更新手続きは、申請書類の送付とともに、更新費用の支払が完了しなければ進められない。なお、支払いは振込のみとする。

審査・更新料 : 10,000 円

なお、更新が認められなかった場合、審査・更新料は返却されない。

VII 問い合わせ

申請手続き担当

GIS 資格認定協会

E-mail : gisca@gisa-japan.org

申請書類の送付あるいは問い合わせは上記メールアドレスのみで受け付ける。

ただし、申請書類のサイズが 2 MB を越える場合は、ファイル転送サービスを利用すること。申請書類は、1 つの PDF ファイルにまとめること。

GIS 資格認定協会 Web Page

<http://www.gisa-japan.org/gisca/>

VIII 更新履歴

2010-02-12 作成

2010-03-04 P3 表 2「貢献ポイント カテゴリの定義及び証拠書類一覧表」補足追記

2012-04-20 P1 I「更新の要件と更新手続きの概要」、P3「IV-3 専門分野への貢献ポイント（貢献ポイント）の記入【申請書式 CON-R】」、表 2「貢献ポイント カテゴリの定義及び証拠書類一覧表」修正追記

2012-09-06 IV-2 履修ポイントの定義に関する補足の追加、V 申請の却下の挿入、規程の改訂に伴い「I 更新の要件と更新手続きの概要」に更新の規則を示す表を追加。

2012-06-04 IV-2 科目履修及び学会大会出席ポイントの解説の詳細化及び表 2 の改訂（X. イベントへの参加）, Y の廃止

2013-06-25 IV-2 教育ポイントの説明の詳細化。IV-3 履修ポイントの補足説明追記。貢献達成度ポイント「VII. その他の GIS に関する貢献」分類を細分化。

- 2013-07-16 IV-3 表 3 貢献達成度ポイント一覧表 B 及び F に共著者のポイントを追記
2014-07-22 教育ポイントの詳細化、貢献ポイントの説明に表「出席時間の参照値」を
追加。
2018-04-09 I 「更新の要件と更新手続きの概要」学会名修正と連携学協会名を追記。